

「キリストの足跡」
(ペテロの手紙第一2章16節～25節)

牧師：原 雅幸

序) 恵みのルート

- ・ルート A: 「苦しみを取り去ってください」との祈りに応えられる恵み
- ・ルート B: 「悲しみに耐えるところに『恵み (=新改訳では「神に喜ばれること」と訳されている)』がある」



1) 罪からの解放という恵み (すべての土台: ルート A)

- ・主イエスの十字架の死は、私たちの罪の身代わりである。
- ・24 節直訳「キリストはご自身で、そのからだによって、私たちの数々の罪をあの木の上に運び上げてくださった。」(イザヤ 53 章の反映)
- ⇒キリストのからだに刻まれた罪=傷 (ローマによるむち打ちが象徴)
- ⇒傷の癒し=罪のゆるし: 神の宝を傷つけた負債がすべて支払われた!
- ・彷徨い傷を受けるばかりの人生から、愛に富む羊飼いに導かれる人生へ
- 十字架の愛の深さがわかるほどに、神に自分のいのちを使っていたきたいと願うようになる。そこで 17 節の御心 (普遍的原則) が示される。

2) キリストに深く結びつくという恵み (霊的成長へのルート B)

- ・18 節～は「しもべたち」への勧めだが、ケーススタディなので、しもべ以外の人も、ここから学ぶことが求められる。
- ・しもべたちの直面していた現実、御言葉に従うと、主人の価値観と衝突してしまうという状況。そこで「従う」とは?
- ・「敬意をこめて」=「恐れをもって」: 最終権威は主人ではなく、神であることを覚えつつ、それでも「従う」(聖なる不服従を含む)。それによって苦しむことあっても、主人を倒すことはしない。
- ・「神の御前における良心のゆえに (直訳: 「神の意識を通して」)
- 「もし神に意識を集中させて、これに耐えるならば、ここに恵みがある」
- ・十字架は「身代わり」だけではなく、従うべき「模範」でもある。



3) 模範としての十字架～世界を癒すための道～

- ・個人が神に立ち返る道としての十字架は、イエスの十字架のみ。
- ・世界が癒され、御国 (愛と正義と平和) がこの地に実現するには、キリストの模範に従って、キリスト者が、十字架の道を生きること。

結) キリストの足跡に「注意深く聞き従う」必要

- ・ペテロの時代と法治国家の現代の違いをふまえ、適用は慎重に賢明に。
- ・理不尽な出来事の中で神に意識を集中して生きる。忍耐は他者のため。

名前(_____)

◆お話を聞きながら、答えを考えましょう。

① 最近、神さまにお祈りして、聞かれた(かなった)ことは何ですか。

② お祈りしてもその通りにならないのはどういう時でしょう。○×で答えましょう。

- () 罪がゆるされていないので、神さまにお祈りが届かないとき
- () 苦しみや悲しみを耐えることで、イエス様とひとつになれるとき
- () 神さまの気分がのらないとき
- () 自分が良い子にしていないとき
- () その他 _____



◆お話を聞いた後で、考えましょう。

③ 神様は、救われた人をすぐに天国に連れて行かないで、この世界に生かし続けます。それはなぜでしょうか。

～教会クイズ (教理問答) ～

Q035 「聖徒の交わり」を信じるとは、どういうことですか。

A035 わたしたちが _____ さまに結ばれて、神さまから与えられ

た _____ をお互いに分け合うということです。

こうして、 _____ の喜びをより豊かに、また多くの人に

届けたいと思うようになります。

□ヒント□ 使徒 20:32-35、第一コリント 12:12-31、ガラテヤ 6:2-6、第二コリント 13:13、エペソ 2:14-22、第一ペテロ 4:7-10、第一ヨハネ 1:3